

【はじめに】

1974 年、明るい豊かな社会の実現を目指し、志のある青年が集まり、塩山青年会議所は日本で 565 番目の青年会議所として歩みはじめました。52 年という長い月日に考えを巡らせることは容易ではありませんが、どの一年にも様々なドラマがあるということは私自身の経験から思うところです。その間に時代も大きく変わりゆき、経済においては戦後復興期から高度経済成長、バブルの崩壊、失われた 30 年と移り変わっております。また、地域では、2005 年に塩山市、勝沼町、大和村が合併し甲州市となりました。全国でも有数のぶどう、ワインなどの果樹栽培量を有しており、現在も引き続き好調な面もありますが、一方で後継者不足に悩むような農家もあるということも課題であると伺います。

私達も(一社)甲州青年会議所と名称を変更し活動をしてきました。時代は大きく変化していきましたが、地域活性化事業や青少年の育成事業などを自ら企画し、大いに議論し実施していくこと、また様々な体験をしていくことを通じて、会員の成長、会社の成長、そして、地域におけるリーダーを輩出してきました。

そんな(一社)甲州青年会議所はおかげ様で本年設立 52 年を迎えることとなりました。これもひとえに、これまで(一社)甲州青年会議所における一つひとつの運動に情熱を注いで活動されてこられた多くの先輩方と、ご支援くださいました関係諸団体、市民の皆様のおかげでございます。心より感謝と敬意を表させていただきます。ありがとうございます。本年私たちはその想いを受け継ぎ、次代により良い形で繋いでいけるよう、精一杯活動して参ります。時代は日々変化しています。

その中でもコロナウイルス感染拡大は人々に行動制限を強いるなど、生活や経済に多大な影響を及ぼしました。世の中の流行や価値観が変化し、止まることのない時間の流れの中で私達(一社)甲州青年会議所は環境の変化に対応しながら、明るい豊かな社会の実現に向けて歩みを進めて参ります。

<私の JC 歴>

私は 2015 年に(一社)甲州青年会議所に入会させていただきました。翌年は都合で、年の途中から総務委員会の財政局長代理を仰せつかることになりました。始めは右も左もわかりませんでしたが、業務を学ぶことや理事会への出席を通じて、目指している理念を少しずつ理解できるようになりました。また、財務の業務では、事業の構築や本体会計の予算振り、各委員会との調整など他では経験できないことを学び、青年会議所活動だけでなく仕事

にも活かせる有意義な一年を過ごさせていただきました。

2019 年には山梨ブロック協議会に出向させていただき、財政局長を仰せつかりました。日本青年会議所のルールに基づいた厳しい財政審査やコンプライスを学び、公益社団法人としても決算監査も経験させていただきました。2019 年を皮切りにその後も関東地区協議会や日本青年会議所へ委員出向させていただき、多くの出会いがありました。皆さんとは今も連絡を取り合う中で、多くの方と時間を共にできたことは私の財産です。（一社）甲州青年会議所の皆さんにも様々な機会に挑戦し、貴重な経験をしていただきたいと思います。

【研修拡充事業】

青年会議所は単年度制で年度ごとに組織の体制や事業が大きく異なります。これはその年ごとの会員の特性や時代の背景に合わせてより良いものを行える良さがあります。会員の必要な知識やスキルもその年々で違います。対内、対外の交流から青年会議所にはないサービスや商品について知ること、新たなアイデアが生まれたり、さまざまな業種の方と交流することで、広範な人脈を築くことができます。そうすることで異なる業界同士でのコラボレーションやアイデアを持ち寄り、新たなプロジェクトが始まることも考えられます。他業種の成功事例や失敗談を共有することで、青年会議所活動に活かせるヒントを得られます。人脈の拡大、コラボレーションの機会、スキルの向上、新しい視点の獲得を目指します。

【青少年事業】

青少年育成はとても重要なテーマです。教育や社会環境、家族の影響など、さまざまな要素が関わっています。特に青少年の育成において非常に効果的なのは遊びの中で学ぶことです。遊びを通じて、子どもたちは自然にスキルや価値観を身につけることができます。具体的なポイントを挙げると、グループでの遊びを通じて、協力やコミュニケーションのスキルを学び、社会性の向上が期待できます。自由な遊びやアート活動は、創造力を伸ばす素晴らしい機会です。ゲームやチャレンジを通じて、試行錯誤しながら問題を解決する力を養い問題解決能力が身に付きます。遊びの中での勝ち負けや役割の変化を通じて、自分や他者の感情を理解する力が育まれます。アウトドア活動やスポーツなど、身体を使った遊びを通じて体験的学習ができます。これらの機会を提供することで会員にも自分の行動が社会に与える影響を理解し、責任を持つ姿勢を養うことができ未来のリーダー、近い未来のリーダーの育成を目指します。

【LOM 交流事業】

近年、他 LOM との繋がりや山梨ブロック協議会への事業の参加などが少なくなってきました。理由として仕事、プライベート、自身の LOM の事業や会議で手一杯などを耳にします。しかし、各地会員会議所との繋がりや交流には刺激があり、より良い経験となります。LOM 内の交流から山梨ブロック協議会と連携を考え青年会議所運動に参加しやすい環境を整えます。

【会員拡大】

コロナウイルスによる生活様式の変化により、他者との関わりは以前より薄くなってきたと実感しています。だからこそ、仲間と共に力を合わせて何かを成し遂げるという経験ができる青年会議所活動は重要度を増していると思います。

多くの仲間と活動することのメリットは数多くありますが、まずは会員一人ひとりが魅力を再認識し、意識的にそれを積極的に発信して、入会を勧めるようにしていくことが重要です。多くの方に活動の様子やメンバーの魅力が伝わることで、人の心を動かす会員拡大が図られ、互いに刺激を与え合えるより良い（一社）甲州青年会議所になっていくこと確信します。

【結びに】

＜持続可能な組織を目指す＞

青年会議所には「修練」「奉仕」「友情」という三信条があります。その中で特に修練という言葉の捉え方や使い方には注意が必要です。修練の名のもと、他者に大きすぎる負担を与えたり、ご自身が無茶をしながら我慢を続けたりしては、継続的な活動は難しいものです。いくら地域社会で明るい豊かな社会の実現を目指しても、ご自身の身の回りの方を明るく豊かにできなければ、私達は遠からず持続可能な組織でなくなってしまうでしょう。今年度は会員一人ひとりがそれぞれの環境で活躍できる組織への改善に注力して活動して参ります。

昨年、サマーコンファレンスに参加した時のことです。私達が傘を無くしてしまい、雨の中で歩いていたところ、傘を譲ってくれた方がいました。大変ありがたく思い、お話を聞いたところ、飲食店をされているとのことでした。のちほどお店の方を伺った際に、店内には「忘れてならぬものは思義、捨ててはならぬものは義理」と書かれていました。思義とはよいこと、正しいことと解釈しています。他者を思い、義理を忘れずに行動していくことが大切だという体験をしました。明るい豊かな社会の実現のためには、大きなビジョンだけでなく、目の前の他者へ敬意や感謝を伝える必要があります。人と人との繋がりを大切にしていけることを52年目もきちんと実施していき、これまで先輩方が歩んでこられた道をメンバー全員で歩みを進めていきたいと思っています。年間どうぞよろしくお願い致します。

■ 2025 年度 slogan ■

歯車

～動力の伝達～

【基本方針】

- ☐ 組織の為に自分の為に行動する。
- ☐ 青年会議所を楽しくする。
- ☐ 仲間を増やす。
- ☐ 会議をスタイリッシュに。